

阿膠（あきょう）

〔別名〕 膠・陳阿膠・驢皮膠

〔基原〕 ウマ科のロバ，ウシ科のウシなどの除毛した皮を水で煮たもの（ニカワ・膠）。

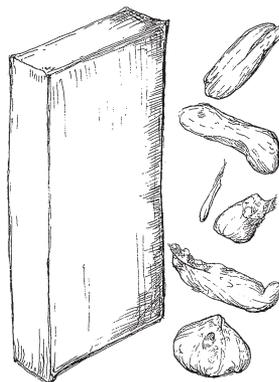
〔修治〕 目的に応じて以下のような修治を行う。

- ①阿膠（陳阿膠・驢皮膠）：生のニカワ塊で，補血・滋陰潤燥に用いる。止血にも働く。
- ②阿膠珠：蛤粉とともに炒って珠にしたもので，潤肺化痰・止血に用いる。
- ③蒲黄炒阿膠：蒲黄とともに炒ったもので，止血に用いる。

〔性味〕 甘，平

〔帰経〕 肺・肝・腎

〔効能〕 補血・滋陰潤燥・止血



あ

臨床応用

1. 補血

阿膠はつよい補血の効能をもち，血虚に適する。

肝血虚の顔色や皮膚につやがない・目がかすむ・頭のふらつき・四肢のしびれ感・筋肉のひきつきり・舌質が淡でやせる・舌苔が少ない・脈が細などの症候に，熟地黄・当帰・白芍・枸杞子などと用いる。

方剂例 芎帰膠艾湯

2. 滋陰潤燥

阿膠は滋膩の性質をもつ「血肉有情の品」で，補血すると同時に滋陰益精に働き，体液を滋潤するので，陰虚に広く用いられる。肺・心・肝・腎の陰虚に適する。

① 滋補肝腎

熱病後期の傷陰（肝腎陰虚）あるいは慢性病の肝腎陰虚で，頬部の紅潮・身体の熱感・手のひらや足のうらのほてり・口乾・腰や膝がだるく無力・盗汗・午後の潮熱・舌質が深紅で乾燥・舌苔が少ないあるいは剥苔あるいは無苔・脈が虚大あるいは細数などがみられるときに，生地黄・熟地黄・白芍・麦門冬・天門冬・炙甘草などと用いる。

方剂例 加減復脈湯・一甲復脈湯

陰虚・血虚のために脳や筋脈の滋養ができず肝風が生じ，筋肉のけいれん・ひきつきり・めまい感・ふらつきなどがみられるときには，さらに牡蛎・石決明・龜板・

鼈甲などの熄風潜陽薬を配合する。

方剂例 阿膠鷄子黄湯・大定風珠・二甲復脈湯・三甲復脈湯

心火の焦躁感・不眠・口内炎などをともなうときは、さらに黄連・黄芩などを加える。
心陰虚の動悸・不安感・多夢などをともなうときは、酸棗仁・麦門冬などを加える。

方剂例 黄連阿膠湯

② 滋陰潤肺

肺陰虚の慢性の乾咳・無痰～少痰あるいは切れにくい白色粘痰あるいは血痰・身体熱感・手足のほてり・盗汗・咽の乾燥・口乾・舌質が紅で乾燥・少苔～無苔・脈が細数などの症候に、麦門冬・天門冬・貝母などと用いる。

方剂例 補肺阿膠湯・清燥救肺湯・月華丸

③ その他

心気陰両虚の脈の結代・動悸・息ざれ・疲労倦怠感・身体熱感・口乾・舌質が紅で腫などを呈するときに、炙甘草・人參・桂枝などの補心気・生津・通陽の薬物と用いる。

方剂例 炙甘草湯

陰虚の水熱互結（炎症性の水分排出障害で脱水をともなう）で、身体熱感あるいは発熱・口渇・多飲・尿が濃くスムーズに出ない・排尿痛・血尿・下痢・舌質は紅・脈は沈滑でやや数などを呈するときに、滑石・沢瀉・猪苓・茯苓などの利水薬とともに用いる。阿膠で滋潤し、利水薬で分利（腸管内の水分を吸収して下痢を止め、血中の水分量を増して尿を稀釈する）する。

方剂例 猪苓湯

3. 止血

阿膠は平性で「凝固血絡」するとされ、つよい止血作用をもつので、出血全般に広く用いられる。蒲黄炒阿膠を使用するのがよい。阿膠が補血・滋陰の効能をもつことから、血虚・陰虚の出血にもっとも適する。

血虚・陰虚の崩漏（不正性器出血・切迫流産など）には、四物湯を基本にし艾葉などと用いる。

方剂例 芎帰膠艾湯・両地湯・寿胎丸

肺陰虚の咯血には、白芨・藕節・枇杷葉・百合・海蛤殼などと用いる。

方剂例 白芨枇杷丸

陽虚の出血にも、附子などに配合して用いる。

方剂例 黄土湯

このほか、弁証にもとづく方剤を基礎に、止血の目的で阿膠を加えて広く用いるとよい。

4. 補遺

阿膠の効能を利用して、以下の状況にも応用する。

① 潤腸通便

腸燥便秘に，単独であるいは麻子仁・柏子仁などと用いる。

② 柔肝

肝気虚・肝陽虚に対し，補肝気の黄耆・人参などと用い，肝血・肝陰を滋補して肝気・肝陽の昇発を補助する。

③ 補腎益精

腎精不足（腎虚）に熟地黄・何首烏・山薬・山茱萸などと用いる。

【常用量】 3～15g

【使用上の注意】

- ①煎薬には入れない（こびりついてしまう）。熱い酒（黄酒など）や湯に溶かしておき，残渣を除去した煎汁にそそぎこみ，かきまぜて服用するとよい。阿膠珠を呑用してもよい。
- ②非常に膩で消化されにくく，腹につかえるので，脾胃気虚には用いない。潤腸通便の効能もあるので，泥状～水様便にも使用しない。
- ③実熱の出血・血瘀の出血には，早期から使用してはならない。邪をとどめたり，瘀をつよめるからである。
- ④熟地黄と効能が似るが，阿膠はさらに膩滯である。阿膠は補血・潤肺・止血にすぐれ，熟地黄は滋陰に勝る。

威靈仙（いれいせん）

【別名】 鉄靈仙

【基原】 キンポウゲ科のサキシマボタ
ンズルの地下部。

【性味】 辛・鹹，温

【帰経】 膀胱

【効能】 祛風湿・通絡・止痛



臨床応用

1. 祛風湿・通絡・止痛

威靈仙は辛散・温通して十二経脈を通利し，裏湿を除き止痛するので，痹証に適する。血行改善・組織間の水分除去・鎮痛に作用する。

風湿痹の関節痛・しびれ・運動障害・むくみなどの症候に，防風・羌活・独活・蒼朮・防己などと用いる。

方剂例 二朮湯・疎経活血湯

2. 消痰逐飲

威靈仙は「走竄して膈腔の痰飲を除く」とされ、裏湿に用いられる。

胸膈の痰飲停滞で呼吸困難・多痰・嘔吐などを呈するときに、草果・生姜などと用いる。

3. 行気化滯

威靈仙の辛散善走の効能を利用して、気滯血瘀の月経痛・腹痛などに、当帰・肉桂などと用いる。

4. 補遺

威靈仙は魚骨を軟化させるので、小さい魚骨が咽喉部や食道に刺入した場合に、威靈仙 15～30gの水煎液（あるいは酢煎液）をゆっくり数回飲み下すと有効である。

[常用量] 3～9g

[使用上の注意]

作用がつよいので虚弱者には慎重に用いる必要がある。

茵陳蒿（いんちんこう）

[別名] 茵陳・茵陳・綿茵陳・綿茵陳

[基原] キク科のカワラヨモギの幼苗。

[性味] 苦，微寒

[帰経] 脾・胃・肝・胆

[効能] 清熱化湿・退黄・疏肝

臨床応用

1. 清熱化湿・退黄

茵陳蒿は苦燥・寒清で，脾・胃・肝・胆の気分に入って清熱化湿する。また，利胆退黄に働き「黄疸の専薬」とも呼ばれる。

① 利胆退黄

茵陳蒿は，消炎・炎症性滲出の抑制・解熱などの作用（清熱化湿）をもち，またつよい利胆作用があり，黄疸に有効である（溶血性黄疸には無効で，胆汁の排泄障害に用いるべきである）。

陽黄，すなわち湿熱の黄疸で鮮黄色を呈し，発熱・熱感・悪心・口がねばる・腹満・尿が濃い・頭汗・舌苔が黄膩・脈が滑数などをともなうときに，山梔子・大黃などと用いる。



方剂例 茵陳蒿湯・胆道排石湯

肝胆湿熱で、いらいら・怒りっぽい・胸脇部が脹って痛む・口が苦い・脈が弦数などをともなうときは、さらに柴胡・鬱金・香附子などを加える。

方剂例 清胆行気湯・清胆利湿湯・清胆瀉火湯

脾胃湿熱で、腹満・泥状～水様便・むくみなどが顕著な場合は、白朮・茯苓・猪苓・沢瀉などを加え、大黄は配合しない。

方剂例 茵陳五苓散

陰黄すなわち寒湿の黄疸で、暗黄色を呈し、元気がない・冷え・舌苔が白膩・脈が沈遅などをともなうときは、附子・乾姜・炙甘草などと用いる。

方剂例 茵陳四逆湯**② 清熱化湿**

茵陳蒿の清熱化湿の効能を利用して、湿熱全般に用いる。

湿温初期の発熱・頭重・身体が重い・胸が苦しい・悪心・尿が濃い・舌苔が膩・脈が数などの症候に、藿香・白豆蔻・厚朴・滑石などと用いる。

方剂例 甘露消毒丹・一加減正気散

湿熱瘧の関節痛・発赤・熱感・むくみ・舌苔が黄膩などの症候に、防風・蒼朮・羌活などと用いる。

方剂例 当帰拈痛湯

胃湿熱の歯齦の腫脹・疼痛あるいは口内炎などに、黄芩・枇杷葉などと用いる。陰虚をともなうときには、地黄・石斛・麦門冬などを加える。

方剂例 甘露飲

このほか、風湿熱のじんましんや湿疹にも用いてよい。

2. 補遺

茵陳蒿には軽度の疏肝の効能があり、つよい疏肝の効能をもつ柴胡が使用できない陰虚の肝鬱に代用されることがある。

肝風内動のふらつき・頭痛・めまい・手のふるえなどの症候に、竜骨・牡蛎・代赭石・龜板・玄参などと用い、川楝子・麦芽などとともに疏肝を補助する。

方剂例 鎮肝熄風湯

[常用量] 9～15g。黄疸などで大量に用いるときは30～60g。

[使用上の注意]

虚黄・蓄血黄疸（溶血性黄疸）には用いない。

淫羊藿（いんようかく）

[別名] 羊藿・仙靈脾

【基 原】 メギ科のイカリソウ、ホザキイカリソウなどの葉。

【性 味】 辛・甘，温

【帰 経】 肝・腎

【効 能】 補腎壮陽・強筋骨・祛風湿



イカリソウ
ホザキイカリソウ

臨床応用

1. 補腎壮陽

淫羊藿は補腎壮陽に働き，辛温でやや燥性をもつが，作用が緩和で附子のように剛燥峻猛ではないので，腎陽虚に適する。

腎陽虚の腰や膝がだるく力がない・四肢の冷え・寒がる・インポテンツ・遺精・女性の不妊などの症候に，熟地黄・山茱萸・鹿茸・肉苁蓉などと用いる。

方剂例 さんいくたん 贊育丹

腎陰陽両虚で，のぼせ・ほてり・いらいらなどの火旺の症候とともに，舌質が淡白・四肢の冷えなどの虚寒の症候がみられるときは，仙茅・巴戟天などの補陽薬と知母・黄柏などの瀉火薬を配合して用いる。

方剂例 二仙湯

2. 祛風湿・強筋骨

淫羊藿は辛温で祛風化湿する。末梢血管を拡張してしびれ痛みを止め，拘縮を緩解するので，リウマチ性の疼痛などに用いられる。

寒湿痺のしびれ痛み・冷え・むくみ・関節の拘縮などの症候や，関節痛・下肢が無力などを呈するときに，威靈仙・桑寄生・秦艽・当帰・川芎などと用いる。小児麻痺の後遺症などにも応用される。

方剂例 羊藿寄生湯・淫羊藿湯

3. 補遺

淫羊藿は補肝陽にも働くので，肝陽虚にも用いられる。

肝陽虚のやる気が出ない・倦怠無力感・憂うつ・四肢のしびれ感・四肢の冷え・陰部～大腿内側の冷え痛み・陰囊が縮む・脈が沈で無力・舌質が淡で腫などの症候に，黄耆・人參・白芍・枸杞子・山茱萸などと用いる。

方剂例 羊藿三子湯

【常用量】 6～12g

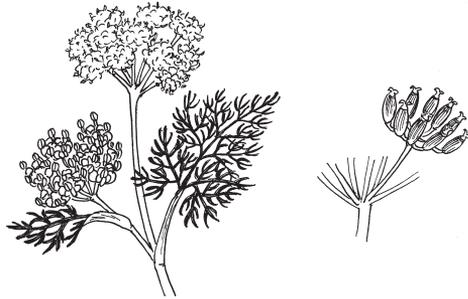
【使用上の注意】

- ①実熱・陰虚火旺には禁忌である。陰陽両虚で火旺をともなうときには，滋陰瀉火薬とともに用いてもよい。

- ②効能は巴戟天・肉蓯蓉に似るが、補陽の力は淫羊藿がすぐれており、巴戟天・肉蓯蓉は滋潤性を具えている。

茴香（ういきょう）

- [別名] 小茴香・小茴
 [基原] セリ科のウイキョウの成熟果実。
 [性味] 辛，温
 [帰経] 肝・腎・脾・胃
 [効能] 散寒止痛・理気 and 胃



臨床応用

1. 散寒止痛

茴香は辛温で芳香があり，散寒の効能により腹中の血行を促進し，鎮痛に作用する。

① 散寒・疏肝理気

茴香は散寒するとともに，軽度の疏肝理気の効能をもつので，肝経の寒証に用いられる。

寒滞肝脈，すなわち冷えによる下腹～陰部～大腿内側の疼痛や月経痛に，烏薬・延胡索・川楝子・肉桂・当帰などと用いる。

方剂例 天台烏薬散・暖肝煎・少腹逐瘀湯

② 温腎散寒

茴香は温腎にも働くので，腎陽虚の冷えに補腎薬の補助として用いる。

方剂例 贊化血余丹

2. 理気 and 胃

茴香は芳香があり，胃に対して緩やかな刺激作用をもち，食欲を出し蠕動を促進し，悪心・嘔吐を止める。温性であるところから胃寒に適する。

胃寒の悪心・嘔吐・胃痛・胃部の冷え・つばが湧くなどの症候に，良姜・桂枝などと用いる。

方剂例 安中散

[常用量] 3～9 g

[使用上の注意]

陰虚・熱証には用いない。

鬱金（うこん）

〔別名〕 玉金・宇金

〔基原〕 ショウガ科のウコン、ハルウコンの塊根。

〔品種〕 産地により以下の区別がある。

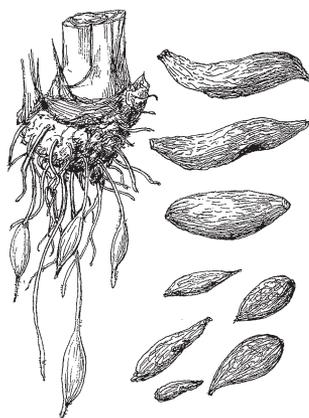
① 広鬱金（黄鬱金・広玉金）：主に四川産。疏肝理気の効能がよい。

② 川鬱金（黒鬱金・温鬱金・川玉金）：主に浙江産。活血化瘀の効能がよい。

〔性味〕 辛・苦，寒

〔帰経〕 心・肺・肝・胆

〔効能〕 疏肝解鬱・理気止痛・活血化瘀・清熱涼血・清心開竅・利胆退黄



臨床応用

1. 理気化瘀

鬱金は、心・肝の2経に入るとともに肺・胆に入るとされ、気分作用して理気解鬱し、血分に入って活血化瘀し、「血中の気薬」と言われる。それゆえ、気滯血瘀には常用の薬物である。

① 疏肝解鬱・理気

鬱金は肝の疏泄をつよめて解鬱し、精神情緒を安定させ自律神経系の機能を調整する。

肝気鬱結の憂うつ・抑うつ・いらいら・胸脇部の脹った痛み・月経不順・月経痛・乳房が脹って痛む・脈が弦などの症候に、柴胡・白芍・香附子などと用いる。

〔方剂例〕 舒鬱清肝湯・通乳散結湯・疏肝解鬱湯

② 理気止痛・活血化瘀

鬱金は理気止痛・疏肝に働くとともに、活血化瘀の効能により鬱血や血流停滞を改善する。気滯血瘀に適し、とくに肝気鬱結をとまなうものによい。

気滯血瘀の固定性の脹った痛み（胸痛・胸脇痛・腹痛・月経痛）・舌質が暗～紫あるいは瘀斑・脈が弦細などの症候に、理気の柴胡・香附子・枳実・薤白や活血化瘀の桃仁・紅花・赤芍・丹参、あるいは調経の当帰・川芎・白芍などと用いる。

〔方剂例〕 舒鬱清肝湯・疏肝解鬱湯